

## 生理学教育の質の担保

近畿大学医学部 松尾 理

### I 始めに

日本生理学会では従来から生理学教育に力を入れてきた。それは毎回の大会の際、教育委員会シンポジウムが企画され、生理学教育に熱心な方々が少人数であるが熱心な討論をされていた。筆者が院生のころに参加した記憶があるので、相当な年月の歴史を刻んでおり、会員の教育力向上に貢献してきていた。しかし、毎回1つのテーマでシンポジウムを組んでも幅広い生理学をカバーするには相当な年数がかかることは自明の理であった。

日本生理学会活性化のために将来計画委員会が新しく設置され、小生が初代委員長に就いた。その委員会で多面的な議論をし、学会に多くの革新的な提言をした。その提案の一つに、生理学教育のことがある [1]。

### II モデル講義

その後筆者が教育委員会委員長になり、教育委員会プログラムとして、単発のシンポジウムを止め、「モデル講義」を企画し実施してきた [2]。

これは、大学教員が教育に関する教育を何ら受けることなく生理学教育に携わっている現状を踏まえて、「モデル」になるような講義を大会の中に組み込んだのである。

大会では、主に研究に関する発表・討論が主流で、教育に関する演題は非常に少ない現実があった。そのため、教育についての知見を広め、会員自身の教育技法をブラッシュアップする場はなかった。

当初、モデル講義に対する参加者は同時開催されている多くのシンポジウムへの参加者に比し

て、少ないであろうと予想してスタートしたが、実際には毎回200人以上の参加者を得た。このことは、日本生理学会会員が生理学教育に対してある種のハンガー状態にあると思われた。

モデル講義を企画・運営しながら、いろいろ問題が露呈してきた。例えば、モデル講義で扱うテーマを生理学の非常に幅広い領域から選んだとしても、すべてをカバーするには相当な年数がいると予想された。また、実施する教育技法についても、①板書のみで進行するのか、②パワーポイントのみで進行するのか、③あるいは昨今のICTを活用した新しい方略でやるのか様々であるが、講義内容を学生にわかりやすく提示する方法を講義内容(テーマ)と組み合わせれば莫大な選択肢数になってしまう。

### III 生理学エドゥケーター

このような問題をはらみながらモデル講義が実施されてきていたが、医療系(Health Science系)の多くの教育機関で実施されている生理学教育の質を担保することについて、モデル講義だけでは不十分であり、チーム医療を構成するメンバーとして新たな方略の必要性が明らかになってきた。そこで日本生理学会教育委員会は生理学教育者を育成・支援するために、「生理学エドゥケーター」を認定する新しい制度をスタートさせた [3]。

平成26年3月に行われた日本生理学会鹿児島大会でも、モデル講義及び教育講演が生理学エドゥケーターとして認定される [4] ための正式なプログラムとして挙げられた。

モデル講義はそのタイトル通り、参加者にとって生理学教育のためのモデルになる必要がある。

教育委員会は大会校の医学生に参加を依頼し、モデル講義担当者が講義しやすい環境を整備している。そのため、対話型の講義をする担当者であっても、大学で学生を対象にして講義する状況に近いものがあつたはずである。

しかしながら、一部のモデル講義担当者が学生の方を向かないで、聴衆である生理学研究者に自らの研究内容を自慢げに披露したのはモデル講義の趣旨に反し、将来に汚点を残すことになった。講演内容も座長をしていた教育委員会委員長が大学院講義であると言ったほどである。Student-centered な姿勢で臨まれる事が全てのモデル講義担当者に求められる。

#### IV 生理学教育の質の担保のための改善点の提案

##### A 演者についての問題点とその改善点

ここで明らかになった問題は、実際に行われるモデル講義の質を予め教育委員会としてチェックしておく必要があるという点だ。例えば、スライドの pre-view を委員会でを行い、ここでの了承がないと実施できないようにする事である。この pre-view が無い場合、モデル講義と言う教育の最大行事に大学院向けの講義を入れるという非常に粗末なモデル講義が行われてしまったのである。

少なくとも、モデル講義会場に参集した会員の諸先生方にとってモデルになる必要がある。終了後にあの講義は何だ！と言う声が多くあつた事を関係者は真摯に受け止め、pre-view 制度を導入させる必要があると言える。

##### B コメンテーターの問題点と改善点

モデル講義の際、大会場に近い教育機関に在籍の「日本医学教育学会理事」に医学教育をリードする立場からモデル講義の講評を依頼している。この狙いは、実施されたモデル講義を医学教育学的見識に元づきピアレビューすることにある。その講評を聞いた参加者はモデル講義の最中に感じたことが自らの主観的なものか、あるいは医学教育学的に共通するものであるのかなどを、そ

れぞれのモデル講義について評価する。今回のコメンテーターは、教育委員会が以前から行ってきたモデル講義の中でのコメンテーターの役割を十分認識されていなかったため、総論的な講義を行っていた。そのため、聴衆からは提示された3つのモデル講義を自分なりに評価する以外に方法がなく戸惑いがみられた。

そこで教育プログラムにおけるコメンテーターの役割を事前に十分に説明し理解してもらった上で、個々のモデル講義を個別に評価してもらうことを提案する。その際モデル講義の意義などについても、十分認識して貰うのは当然であろう。

#### V 終わりに

日本生理学会教育委員会が主催するモデル講義であるという以上、本学会の会員にとっていかなる意味でのモデル講義であらねばならない。特に内容の「質」を担保する取り組みが至急必要である。言い換えればモデルにならないようなモデル講義の「ポイント」をいくら集めても意味がない。本学会の教育プログラムが、生理学教育を担保し生理学エデュケータ制度で認定するという以上、ポイント数と言う量だけでなく、生理学教育の質を担保することが、今後日本生理学会の教育関係者が取り組まねばならない大切な問題である。

#### 文 献

1. 松尾 理：日本生理学会の改革. 日本生理学雑誌 64 (9) : 175-178, 2002
2. 日本生理学会教育委員会. モデル講義のアンケート評価. 2007/05/21 15:18:15 [cited 2014年7月1日]; Available from : <http://physiology.jp/exec/page/kyoiku-84model-roq/>
3. 日本生理学会エデュケーター認定委員会, 教育委員会. 生理学エデュケーター制度のご案内. 2013/05/08 [cited 2014年7月1日]; Available from : [physiology.jp/data/download/20130508005734.pdf](http://physiology.jp/data/download/20130508005734.pdf)
4. 日本生理学会. 「生理学エデュケーター」認定実施要項 2014/01/23 [cited 2014年7月1日]; Available from : [physiology.jp/data/download/20140123093706.pdf](http://physiology.jp/data/download/20140123093706.pdf)

「教育のページ」は学部学生，大学院生，ポスドク，教員などを対象に，生理学教育に関する取り組みや意見を紹介することを目的としています．原稿は Web（日本生理学会ホームページ）上にも掲載されます．皆様のご投稿をお待ちしています．投稿規程は <http://physiology.jp/exec/page/kyoiku-page-kitei/> をご参照ください．